施策評価シート（ 令和3　年度の振り返り、総括）

作成日	令和4 年　04月　04日

施策 No.	24	施策名	公共交通ネットワークの整備
主管課名	総合政策課	電話番号	0285-83-8469
関係課名	くらし安全課、商工観光課、社会福祉課、いきいき高齢課、建設課、学校教育課		

1. 計画（Plan）

施策の対象	1）市民及び市内の公共交通機関の利用者　2）公共交通事業者（鉄道・バス）

対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,592				
事業者数	社	2	2				

施策の目標	1）いちごタクシーやいちごバスの利便性が向上し、LRT等との連携によって、市内・市外ともに利用しやすく、安心で快適な地域公共交通による移動ができるようにします。
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	・いちごタクシーといちごバスの１日当たりの利用者数は、１年間の利用者総数を営業日数で除して算出する。 ・公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合は、市民意向調査の「公共交通の利用しやすさ」を使用する。

成果指標名		単位	平成30年度基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度目標値
いちごタクシー利用者数（1日当たり）	目標値	人	67.3	67.8	68.3	68.8	69.4	70	70
	実績値			56.5	56.5				
いちごバス利用者数（1日当たり）	目標値	人	97.1	101.6	106.2	110.8	115.4	120	120
	実績値			96.0	103.3				
公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合	目標値	%	32.9	34.3	35.7	37.1	38.5	40.0	40.0
	実績値			32.5	33.4				
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は公共交通を、積極的に利用する。 行政は市民や利用者のニーズ、超高齢社会に対応した総合的な公共交通ネットワークの整備に努める。

2. 実行（Do）→個別事務事業の実施による（事務事業マネジメントシート参照）

3. 検証・評価と今後の方向性（Check&Action）

（１）施策目標達成に対する要因分析と課題（①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証）

・平成23年11月から運行を開始したいちごタクシーは、回数券の導入により利用促進と利便性の向上を図っているが、1日当たりの利用者数の目標67.8人に対し、令和3年度は56.5人だった。また、令和3年度末の登録者数は10,164人で年々増加しているものの、お断り件数が、１日平均4.2人発生している。
　目標に達しなかった理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により市民が外出を自粛したこと、新型コロナウイルス感染防止対策として、令和2年度からいちごタクシー乗り合いの乗車人数を4人から3人へ制限していること、予約が一定の時間に集中するため希望の時間に予約が難しいことなどが考えられる。

・いちごバスは、平成31年3月4日の芳賀赤十字病院の移転にあわせて、運行コースの見直しを行うとともに26人乗りの小型バスを導入し、昨年度は割安な回数券と定期券を導入し利便性の向上に努めたほか、夏休み期間の小学生無料乗車事業の実施や、未就学児の無料化を行ったが、令和3年度の1日当たりの利用者数は、目標106.2人に対し、103.3人だった。
　目標に達しなかった理由は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されていた令和3年9月において、利用者の落ち込みが見られ、いちごタクシー同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が外出を自粛したこと等が影響したと考えられる。

・公共交通の利便性確保のため、昨年度は次の事業を行ったが、公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合は、目標の35.7%に対し、33.4%であった。
　・民間交通路線を維持するため、真岡鐵道株式会社と路線バス事業者の関東自動車株式会社に補助金等を交付。
　・運転免許証自主返納者に対し、いちごバスといちごタクシーの共通無料乗車券を交付。
　・交通弱者の足の確保として、老人福祉タクシー事業や障がい者福祉タクシー事業を実施し、対象者にタクシー利用券を交付。
　・廃校となった小学校区を対象にスクールバスを運行。
いちごタクシーは１日あたり4.2件のお断りが発生し、予約が取りづらい状況であった。また、市民意向調査の自由意見では、公共交通に関する要望の内、いちごバスの範囲を広げてほしいなど周辺地区の移動手段に関するものが63%であった。これらの要因から公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合が目標に達しなかったものと考えられる。

・昨年度、広域的な移動需要調査及びLRT清原トランジットセンター接続バス路線の検討を行ったが、需要調査の結果から市民の利用意向が低いこと、宇都宮方面の既存バス路線と重複するため調整が必要であるとの結果であった。

（２）今後の方向性（（１）の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す）

・いちごタクシーについては、乗合効率を改善し利用者を増やすため、AIを活用した配車ができるデマンド交通システムを導入する。また、予約集中によるお断り件数を減らすため、いちごタクシー運行台数の増車を検討する。

・いちごバスについては、小学生の夏休み無料乗車キャンペーンや学校での乗り物乗り方教室の実施、各地区地域座参加などを通じ、コロナ対策や利用の仕方を説明するなど、市街地における便利な公共交通であることのＰＲに努めるとともに、定期券、回数券の更なる利用促進を図りながら、利用者数の増加を目指す。
　また、利用状況を見ながらバス停の位置、ベンチなどの乗合環境、運行ダイヤなどを見直し、より利用しやすい公共交通を目指す。

・周辺地区の移動手段の確保については、運転免許証を自主返納した高齢者等の交通弱者対策として、令和５年春頃から、中心市街地と周辺地区を結ぶ新たなコミュニティバスの実証運行を実施する。

・広域的な移動手段の確保については、ＪＲ宇都宮線への接続路線も含め、引き続き需要調査を行うとともに、周辺自治体、民間バス会社等関係機関と協議しながら、検討を進めていく。

4. 構成事業一覧（個別事務事業一覧）

NO	総重、総新 戦拡、戦新	事務事業名	担当	成果指標			評価結果
				成果指標名	単位	令和3 年度実績	今後の方向性
1	総重/戦拡	いちごタクシー及びいちごバス運行事業	総合政策課交通政策係	いちごタクシー登録者数	人	10,164	事業のやり方改善 予算増大
				いちごタクシー利用人数（延べ）	人	13,683	事業のやり方改善 予算増大
				コットベリー号利用人数（延べ）	人	ー	事業のやり方改善 予算増大
				いちごバス利用人数（延べ）	人	36,372	事業のやり方改善 予算増大
				公共交通機関の利用に関する利用者満足度	%	33.4	事業のやり方改善 予算増大
2		自転車ネットワーク事業	建設課建設課維持係	自転車通行帯整備路線延長	km	3.3	現状維持
				整備率	%	8.5	現状維持
3	総重	公共交通サポーター制度事業	総合政策課交通政策係	個人会員申込口数	口	4	事業のやり方改善
				法人会員申込口数	口	8	事業のやり方改善
				いちごタクシー利用者数（延べ）	人	13,683	事業のやり方改善
				いちごバス利用者数（延べ）	人	36,372	事業のやり方改善
4	総重	市内公共交通網構築事業	総合政策課交通政策係	公共交通機関の利用に関する利用者満足度	%	33.4	事業のやり方改善 予算増大
				新たなコミュニティバス乗客者数	人	-	事業のやり方改善 予算増大
5	総重	広域的公共交通ネットワーク検討事業	総合政策課交通政策係	公共交通機関の利用に関する利用者満足度	%	33.4	事業のやり方改善